

1. 評価結果概要表

事業所番号	2771100845
法人名	社会福祉法人 大恵会
事業所名	グループホームいなば
所在地	大阪府岸和田市稲葉町1066番地 (電話) 072-479-1515
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成20年6月12日(木)

「グループホームいなば」は岸和田市の山手地区稲葉町の北側に位置し、特別養護老人ホームいなば荘の併設施設として開設された。建物は緑溢れる環境の中にあり、施設内につくられた遊歩道には季節折々の花々や果物等が栽培されており、利用者の絶好の散歩コースとなっている。職員は、「利用者一人ひとりの意思を尊重する」「利用者の能力をできるだけ維持していくための支援」「ゆとりをもったケア」を心掛けながら、利用者に寄り添い、ともに過ごし支えあう関係を築いている。利用者は床のモップがけ、庭の掃除、お米洗い、菜園での作業等日々の家事や食事に行われる体操レクレーションへの参加、そして近隣のスーパーマーケットへの買い物や公共施設、公園、畑への外出などを通して、毎日楽しみや張り合いのある生活ができています。希望があれば他府県へでも墓参りに出かけるなどの個別支援も行っている。

【情報提供票より】 (20年6月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	8 人	常勤	5人, 非常勤	3人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要 (5月31日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 71.7歳	最低 69歳	最高 87歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人錦秀会阪和病院・医療法人大植会葛城病院・讃岐歯科
---------	------------------------------

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の評価結果について職員全員で検討している。利用者一人ひとりを尊重したケア及び生活背景や思いや希望を聞きとりながら日々のケアに活かせることについて改善が見られる。地域との連携及び金銭管理についてはまだ取組んでいない。またそれらの取組みに対する記録がない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は、外部評価を実施する意義を理解している。計画作成者が自己評価を一度記入した上で職員全員に確認し、それらの意見を集約している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者家族代表、市の高齢介護課職員、老人会々長、民生委員、管理者及び職員が参加して2ヶ月毎に開催し意見交換を行っている。グループホームから事業の内容や利用者の様子などを報告し、参加者からグループホームに対する意見・要望を聴取している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等には来訪時に必ず話しかけ、些細な事でも話していただけるような雰囲気作りに努めている。家族等からのケアに対する要望等は記録し、職員とともに検討し改善に結び付けている。また、意見箱も設置している。今後はアンケートや満足度調査の実施などより積極的な意見聴取を行う事により、家族等の意見をグループホームの運営に反映することが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の小学校・幼稚園の運動会・音楽会への参加や幼稚園児が利用者を訪問したり交流している。中学生の職場体験での訪問もある。また地域の方の畑でいもやタケノコほりやみかん狩り等を楽しませてもらっている。施設全体では、納涼大会に老人会を招待したり、老人会の会合等で地域福祉に関する勉強会の講師として出向いている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所が利用者に対し「プライベートを大切に自分なりのリズムで[安心のある生活]を送ってもらいたい」という思いを言葉にした理念がある。また年度運営方針及び目的を事業計画書に明記している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関の壁に掲示しており、管理者は新任研修時に説明をし、職員は日々の申し送りや会議などを通して理念を共に意識しながら日常の業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校・幼稚園の運動会・音楽会への参加や幼稚園児が利用者を訪問したり交流している。中学生の職場体験の訪問もある。また、地域の方の畑でもやタケノコほりやみかん狩り等を楽しませてもらっている。法人全体では、納涼大会に老人会を招待したり、老人会の会合等で地域福祉に関する勉強会の講師として出向いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、外部評価を実施する意義を理解している。計画作成者が自己評価を一度記入した上で職員全員に確認しそれらの意見を集約している。昨年の評価結果について職員全員で検討している。	○	昨年の課題について職員で検討しているが、改善計画シートへの記入やその取り組みに対する記録がみられない。課題を整理し、課題に対してどのように取り組み、評価がどうであったかを記録し、次のステップへつなげていくことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族代表、市の高齢介護課職員、老人会々長、民生委員、管理者及び職員が参加して2ヶ月毎に開催し意見交換を行っている。グループホームから事業の内容や利用者の様子などを報告し、参加者からグループホームに対する意見・要望を聴取している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市の高齢介護課職員が参加しているが、それ以外にも機会をつくってサービスの質の向上に取り組むなどの連携がみられない。	○	例えば、市内のグループホームが開催する勉強会に市担当者も参加してもらうことなどで、市担当者とともにサービスの質の向上に取り組むことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月利用者の様子やホームの催し等を編集したグループホーム便りを、また3ヶ月毎には預かり金の報告を家族等へ郵送している。それ以外にも利用者に変化のあったときは家族等に電話で報告をしている。さらに、家族等の来訪時には必ず利用者の様子を伝えたり、家族会を年2回レクリエーションを兼ねて開催している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には来訪時に必ず話しかけ、些細な事でも話していただけるような雰囲気作りに努めている。家族等からのケアに対する要望等を記録し、職員とともに検討し改善に結び付けている。また、意見箱も設置している。今後はアンケートや満足度調査の実施などより積極的な意見聴取を行う事によって家族等の意見をグループホーム運営へ反映することが望まれる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護主任が中心となって職員と日ごろからよくコミュニケーションをとり、職員の状況を把握するよう努力している。新しく配属された職員に対しては引継ぎ期間を1ヶ月は取るようにしているが、無理な場合は他の職員がフォローして利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を策定していないが、外部研修は常勤職員が年3回以上参加し、受講後には内部で伝達研修を行っている。内部研修を併設施設で月1回、全体会議で3ヶ月に1回行なっている。また、法人全体では介護福祉士や介護支援専門員の資格取得のための講座を開催しており、職員のみならず地域からも多数の受講生が参加している。	○	グループホームの年間研修計画を作成し、実施状況や成果を把握した上で次の年度へ繋げていくことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度6月より市内のグループホームが集まって定期的に勉強会や見学会を開催する予定である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人の面接等で自宅を訪問したり、入居前に見学や体験で行事に参加してもらったりすることによって、少しでも安心して入居できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事が得意な利用者からは洗濯や包丁の使い方など学んだり、歴史が好きな方や戦争体験の話をしてくれる方からもゆっくりそれらの話を教えてもらいながら散歩する時間を大切にしたり、支えあう関係を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者はあまり希望や意向を表出されず、職員は日々の会話や態度から本人の希望や意向を把握するように努めている。職員はゆっくりと話を聞くように心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に利用者や家族の希望を聞き取り、介護計画に反映している。サービス計画書と心身の状況表には、項目や内容が細かく記載され援助内容もわかりやすくなっている。利用者のケアについて配慮すべき点を要領よくまとめ、理解しやすい内容となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の会議でカンファレンスを行っている。原則は6ヶ月毎または必要に応じて見直し、現状に即した計画を作成している。利用者ごとに担当者が決められ連絡ノートや申し送りノートで情報を共有している。	○	介護計画の見直しを行う際は事前に家族等へカンファレンスへ参加の呼びかけ及び意見の聴取を行う事が望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設と合同で月2回大正琴などの行事や外出を行っている。家族等の支援が無理な場合は、通院支援や他府県でも墓参りに職員が付き添っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望するかかりつけ医に受診している。家族等に協力をお願いし継続受診としている。受診の結果や薬の変更などはその都度確実に申し送るようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や状況が変化した時には経過を観察しながら家族等、主治医、職員が連携をとり話し合っ方針を決めている。重度化して身体的介護が必要になった場合や医療的ケアが必要になった場合は併設施設へ移ることや他の医療施設への紹介などを家族等と十分に話し合いながら取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録等は鍵のかかる引き出しに保管している。個人情報の保護に関しては職員採用時に文書で説明し、誓約書を提出させている。利用者のプライドを尊重し言葉掛けに気をつけている。気になる言葉使いがあればその都度確認しあっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中ゆとりの時間を過ごしてもらいゆっくりと話をすることに心掛けている。利用者の希望や要望、これまでの生活背景など新たな情報を聞き出し、それらを蓄積することで希望にそう支援に結び付けている。消灯や起床時間は決めていない。入浴や食事等、利用者一人ひとりのペースを大切にしよう心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は調理する日勤の職員がたて、利用者は野菜の下準備やお米を洗ったり配膳・下膳・後片付けの手伝いをしている。週4回魚料理メニューを取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、基本的には午後6時以降に行っている。そのことにより夜間の入眠状況が改善された。利用者本人ができることには手を出さず見守りを基本としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事が得意であった利用者が多く、食事の手伝いやモップでの床掃除などできることを役割としてしている。菜園での野菜や果物の収穫、日中の遊歩道の散歩や近隣の畑で芋掘やタケノコ堀などを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	緑溢れる環境の中、晴れた日には遊歩道や近隣の公園へ希望者を募って散歩している。職員は散歩をしているときの会話を大切にしている。週2回スーパーマーケットへ買い物に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけていない。入り口は自動ドアである。居室内から施錠できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併施設設と合同で年2回消防訓練を行っている。消火器や消火栓の設置場所は職員が把握している。地域の方々への協力要請等は行っていない。	○	今後は運営推進会議などを利用して緊急時の地域との連携について話し合う機会を持つことが必要である。また消防訓練について記録を残すことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夜間でも一人ひとりのお茶を準備し、覚醒時に水分補給ができるようにしている。お茶は利用者の好みに応じ、温かいものと冷たいものを用意している。便通の良くない利用者にはミキサーにかけた糸こんにゃくを入れたご飯を摂っていただくなど個別対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はほとんど居間や食堂など共有の空間がある1階のフロアで過ごされる方が多い。居間の外が中庭になっていて日当たりがよく明るく広々としており、季節の花々や菜園がある。玄関を入ったところに畳敷きの長椅子があり、座り心地がよく一息つける場所となっている。壁飾りも季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や季節感のあるあじさいの壁飾り、カレンダーなど飾られている。仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。		

※  は、重点項目。